

# 第4回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事要旨

■開催日時：2009年（平成21年）3月17日（火）10：00～12：10

■開催場所：川崎市役所第3庁舎18F大会議室

■出席者（敬称略）

委員長	進士 五十八	東京農業大学 教授
副委員長	北島 信夫	NPO 法人多摩川エコミュージアム 代表理事
委員	青木 昌夫	公募
委員	亀田 多喜	公募
委員	鈴木 研司	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所 所長
委員	福田 利雄	公募
委員	山道 省三	NPO 法人多摩川センター 代表理事

■議事要旨

### 1. 開会

### 2. 委員長あいさつ

### 3. 趣旨説明

### 4. 議事 ー川崎市多摩川プランの推進についてー

- ・川崎市多摩川プランの推進について、以下のことを説明しました。
  - (1) 2008年度における川崎市多摩川プランの推進状況
  - (2) NPO 法人多摩川エコミュージアムの活動報告
  - (3) 京浜河川事務所の活動報告

### 5. 意見交換

「議事 ー川崎市多摩川プランの推進についてー」の意見交換

(進士委員長)

- ・ まず、この会議の議論の進め方を確認したい。事務局から2008年度の取組について説明があったが、全体像が見えてこない。川崎市多摩川プランが本当に進んでいるのか、どうなのか、事業の進捗だけではなく、課題についても説明してほしい。報告書を見ると「○」ばかりが付いている。
- ・ 本会議においては、川崎市多摩川プランを推進するための戦略化、重点化するための

議論が必要だと感じる。ハード系の整備はこうです、ソフト系はこうです、と説明されても困る。川崎市多摩川プランは、「川崎っ子」を育てるためには、どうするか。総合的に施策を推進しなければならず、そのためにある種の戦略が必要で、その方法論を議論する必要がある。

- ・ 今回の説明を聞いて、川崎市多摩川プランの推進にあたって、施策を重点化していかないとダメだなと感じた。今回の説明は、こうやりましたという分野別の実績と報告で、そうではなく、まず、最初に関口課長から、基調報告というか全体の説明があるべきだ。事務局はよく考えてください。

(山道委員)

- ・ 読み込めばあるのかもしれないが、配布資料「2008年度「川崎市多摩川プラン」の推進に関する報告書(案)」には、安全なまちづくりという視点が不足しているので、治水や地域防災の視点を加える必要がある。
- ・ お配りした資料は、2月にやったシンポジウムのものだが、環境と治水というテーマでやった。日常的に川にふれあうようになってきているからこそ、川の怖さを知ることが大事である。環境学習などについても、洪水など川の怖さを教えることが大切で、それにより市民の自主的でスムーズな避難行動にむすびつく。このような視点は、計画の中に柱として入れたほうがよいので、検討してもらいたい。
- ・ このようなことは川というものを知るためのイベントなどを通じて、地域防災について市民も関わっていることをアピールしていくべきではないか。現在、川崎市では多摩川の施策に力を入れているが、このようなことはトップが変わると方針が変わることがあるので、川を知ることなどの環境学習は、地域防災として重要だと位置付けておくことが大事である。地域防災の一環であれば、簡単にやめることにはならない。
- ・ 今後は、積極的に水害などを教えていく教育が必要だ。報告書の2-5ページに「(8)安全・安心な川づくり」とあるが、ややもすると堤防整備のような治水に捉えられてしまうが、それだけではなく、結局、安全な地域づくりである。官民一体となった安全で快適な地域づくりだということを認識していただきたい。

(進士委員長)

- ・ シンボルマークは、どこに使うのか、どういう用途で使用するのか？

(事務局)

- ・ 「川崎市多摩川サイン計画」の一環として作成しており、河川敷における案内板等のサイン施設で使用する。また、パンフレットなどの広報活動でも使用する予定である。

(進士委員長)

- ・ 私が言いたいのは、どういう趣旨でシンボルマークを作成したかだ。このマークでは、同じ魚が2匹並んでいるが、川崎市多摩川プランの趣旨からすれば、多摩川の生物多様性を表現するためにも、魚の種類を変えるなどの配慮が必要だ。もちろん、デザイン上、同じものを繰り返すという手法はあるが。

(進士委員長)

- ・ 川崎市多摩川プランの策定時は、このプランによって、多摩川だけではなく、川崎のまちづくりをするというコンセプトがあったので、多摩川施策推進課はこのコンセプトを意識しながら、業務に取り組んでほしい。
- ・ 川崎市多摩川プランの実行は、行政が主体となってやるのではなく、市民が主体となってやれるようにネットワークづくりやPRなどでサポートしていくことが重要である。ようするに多摩川施策推進課は、川崎市多摩川プランの実行のための総合プロデューサーであり、主役は市民にやってもらうのだ。

(進士委員長)

- ・ あまり多摩川施策推進課ばかり責めるといけないので、次のステップとして、多摩川施策推進課を盛りたてて、どうしていったらよいかを議論しましょう。推進会議の資料については、重点課題とそれに対する進捗状況を整理することが大切である。

(亀田委員)

- ・ 昨年、多摩川を散歩中に転んで、怪我をしたので、手すりを付けてほしいと市長宛に手紙を書いたら、すぐに返事がきたので、非常に感激している。

(青木委員)

- ・ この報告書は大量な情報があり、どのように評価すればよいか分からないので、ポイントを絞った資料がよい。メリハリをきかせるというか、もう少しわかりやすくしたほうがよい。細かすぎる。
- ・ 治水についても大切で、洪水のときの川の安全面について、環境教育を行うとか安全教育の視点を入れてほしい。

(福田委員)

- ・ この2年間で多摩川がどれだけ川の水が綺麗になったのか、川の水の視点で成果を示した方がよいと思う。
- ・ 孫を連れて河口ぐちの方に遊びに行ったが、さっと気軽に楽しく遊べるようになっていない。
- ・ 多摩川に関する情報を入手したい時に調べ方が分からないので、分かりやすいホームページを作成してほしい。これからは、多摩川に行こう人にホームページを重点的に活用してもらうことが大切だ。
- ・ ホームページでは、遊び場、トイレ、アクセス手段、駐車場等、市民の役に立つ情報を提供してほしい。
- ・ トイレの問題については、1.5km歩くと必ずあるようになるといい。

(鈴木委員)

- ・ 報告書の6-1ページに、せっかく「2009年の推進に向けて」とあるので、ここを重点的に紹介すればよいのではないか。
- ・ ホームページでの情報提供の話があったが、既にパンフレットやNPO多摩川エコミ

ミュージアムのホームページでは、様々な情報が提供されているので、参考にしてほしい。

- ・ 報告書については、充分まとまっていると思う。ただ、A3の折込が多いので、見にくいことは確かだ。

(山道委員)

- ・ 報告書については、あとは特にない。

(進士委員長)

- ・ 確かにこの報告書はA3が多い。「パンフレットより」として同じものが入っているが、このようなものは必要ない。また、いつまでも同じ計画のままというのもおかしい。この報告書は、多摩川と市民との距離を縮めるものである必要があり、このような形では、なかなか難しい。形を変えて、多摩川の情報を入手する方法や「これが今の多摩川です。」ということをも市民に分かりやすく伝えるものにすべきである。「今、多摩川は」みたいなものとして、今年度の年報、例えば、整備状況、イベント開催結果、洪水被害の状況などを写真等で示す必要がある。去年やったイベントの写真を全部だしてもよい。ビジュアルにしないとわかりにくい。
- ・ 報告書は、去年と同じものではなく、わかりやすくしなければならない。昨年度は1年目だったので、このような形式でもよかったが、2年目は同じではいけない。こう変わったとわかるようにしなければいけない。表紙もせっかく作ったのだから多摩川のシンボルマークにするなどして、応募した人の青写真などを出してもいいのだ。このように、全体的に表現の仕方を変えて、工夫して、「今の多摩川」の情報を市民に呼び掛ける形が大切である。
- ・ この辺で事務局から反論ありますか。

(事務局)

- ・ 川崎市多摩川プランは、市民協働と施設整備がテーマなので、NPOなどと連携しながら施策を推進していきたい。
- ・ 坂路の整備やサイン施設の整備などの要望が多いので、重点的に整備をしていく必要がある。
- ・ 運動施設が多く自然が少ないため、芝生等で緑化を推進していく必要がある。

(進士委員長)

- ・ 今、関口課長から、より多くの人に多摩川に来てもらうようにということであったが、多摩川に近づきやすくするためには、その人が行こうという気になるフィジカルの面と、物理的にアクセスしやすくなるという面の、2つの要素があり、ハードとソフトの両面で整備を進めることが必要である。例えば、河川敷で何か魅力的なイベント等アクティビティが行われていれば、行こうとするだろうし。
- ・ 多摩川施策推進課で、「今年は多摩川に近づけるようにする」というテーマを掲げたならば、そのためには、あらゆる施策をそのテーマに沿って実行しなければならない。

それが「重点化」というもので、そうなると戦略が必要になる。それを考えるのが多摩川施策推進課であり、実行は北島さんのところの多摩エコや関係課なのだ。

- ・ 今、埼玉県で環境教育のアドバイスをしているが、上田知事が全小中学校に農地をつくり、環境教育を行うようになった。川崎は「川崎っ子」を育てることが目標であるので、それは多摩川を利用して、子どもへの防災教育、環境教育、体験教育を重点的に行うことである。「川崎っ子育成プログラム」を作り、川を学ぶ、多摩川を学ぶ、そのようなしかけをきっちりプログラムとして作る必要がある。「川崎っ子検定」なんかをやってもいい。合格率の低い学校の校長は頑張らなければならないとか。
- ・ そのためには、指導者を増員することも必要なので、先生向けの講習会を実施するなどの仕組みづくりが重要である。
- ・ 川崎市多摩川プラン推進報告書では、他部局が実施した事業も積極的に紹介して欲しい。そうすることで、その部署もやりがいが出てくるだろうし、全庁的な取組になるのではないかな。
- ・ このあたりで、来年度に向けての御意見があればお願いします。

(北島委員)

- ・ 市民団体の活動を活発にするためには、人の輪を広げることが重要と考え、様々な市民団体や企業との連携を行ってきた。これからも様々な取組を紹介していきたい。

(青木委員)

- ・ サインについては施設整備も大事だが、メンテナンスなど維持管理もしっかり行っていただきたい。定期的にどういう期間で更新していくのかなど。
- ・ バーベキュー問題については、対策会議を実施したとあるが、その会議後にどうなったのか、その結果がわかるといい。マナー講習会等、実施した後の成果を示してほしい。
- ・ 駐車場の有料化は、利用者負担の原則からみても、地球環境への軽減にも寄与するので、また、きちんと管理する上で必要だと思うので、大いに進めていただきたい。
- ・ また、多摩川がいい環境状態になるということはどういうことなのか、考えなくていけない。

(亀田委員)

- ・ 多摩川の案内ガイドがあればよいと思う。ボランティアなんかで。

(進士委員長)

- ・ もうすでにやっていますよ。

(北島委員)

- ・ NPO多摩川エコミュージアムでは、長島先生が「散策こみち」を歩くイベントを、2ヶ月に1回程度実施している。

(福田委員)

- ・ 多摩川の水質を良くするためには、多摩川だけではなく、あとの支流も整備する必要があるのではないか。支流がきれいにならないと、多摩川がきれいにならない。
- ・ トイレの場所が分かる地図があるとよい。
- ・ 多摩川河口部に近づけるように整備して欲しい。

(鈴木委員)

- ・ 河口部は保全すべき場所もあるので、整備と保存のバランスを保ちながら整備を行っている。生態系保全のために立ち入ってもらいたくないところには、トイレも整備していない。

(事務局)

- ・ 平瀬川等支流も整備を進めている。
- ・ 「かわさき今昔あそびマップ」というトイレの場所が分かる地図はあるので、活用していただきたい。

(進士委員長)

- ・ 市民の中には、北島さんのようなよく知っている人もいれば、福田さんのような人もいて、人口が140万にあるというのであれば、知らない人が多くいるわけで、できるだけ情報は市民に提供すべきである。
- ・ 報告書も「多摩川へのいざない」というか、招待状のようなものであるとよい。

(山道委員)

- ・ これまでの施策の多くが何かをつくる、整備するといったプラスの発想となっているが、川崎市も2009年度は、「引く」という発想を持ってみたいかがか。マイナスするというところで、昭和39年の東京オリンピックを契機に、多摩川に公共の運動施設が作られはじめたわけだが、この辺でグラウンドをまちなかへ戻し、運動場の一つでもつぶして、元に戻して、川らしさと呼び戻すことも必要である。
- ・ 市民に対しても環境管理計画や利用上のルールなどの情報を発信することも必要である。また、行政内部に向ってもそうである。

(進士委員長)

- ・ 埼玉県では、緑の特別税を徴収しており、その一部を使って市民活動団体に対する助成を行っており、昨日、その団体による成果発表会があった。これに参加すると、1年間の取組がよくわかるので、川崎市でも行ってはどうか。

(事務局)

- ・ 市民活動団体の発表は、多摩川博で実施しており、今後も継続していきたい。
- ・ 情報誌としての役割となるような資料づくりが重要だと感じた。
- ・ 環境教育に対する負担を感じている先生が多いので、負担を軽減できるような取組を行いたい。

## 「その他」事務局より連絡

(事務局)

- ・ 川崎市多摩川プラン推進会議委員の皆様の新任期については、平成 21 年 7 月 16 日までとなっているが、設置要綱に基づく、再任は妨げないという規定になっている。
- ・ 「川崎市多摩川プラン」が、現在実行 2 年目であることや、来年度、「川崎市多摩川プラン」のリーディングプロジェクトの見直しを図ることなどから、委員の皆様には、引き続き、再任していただく方向で考えている。
- ・ 次の 2 年間の任期について、お受けできない場合には、今月末までに事務局まで、その旨を御連絡ください。

## 6. 閉会

以上